

# 保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2013年  
5月20日(月)  
第92号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

東京自治労連主催 4月21日

「公立保育園を守り、豊かな保育をめざす学習交流集会」続報

## 杉並の保護者の発言 取り組みへの豊富な示唆

4月21日に開催された表記の集会については、続報②として杉並の保護者の発言をお伝えします。妊娠初期から保育園訪問をする深刻な「保活」の実態、そして、運動に対する豊かな示唆を与える内容です。

### きびしい保活、互いが“ライバル”

今年の2~3月に待機児童一揆と称される行動が各地で起きたが、そのはじめは杉並区での集会、異議申し立ての活動でした。

私は、昨年4月に第一子となる長男を出産し、初めて保活というものをしました。大変と言うことは聞いていたので、妊娠4カ月ごろからスタートさせました。それが1月でしたが、その時、認証などの認可外保育園に電話をかけたら、24年度分の入所は不可能といわれたところが大半でした。25年度分の入所しか受け付けないという園には、いつから受付がスタートするのか電話で確認し、その日に電話。また、見学しないと登録できないというところには、見学の予約を入れて施設見学をし、登録をしないといけませんでした。私は、15園ほど登録をしましたが、そんなに多い方でもなく、多い人だと30園とか、何駅も離れた職場の近くの保育園まで予約をしている人もいます。

そのような状況なので、保育園を探している保護者とあっても、なかなか保育園の話はできませんでした。自分の子どもが入れるかもわからないなか、なかなか話ができないのです。みんな困っているけど、話しづらい。そんな状況でした。

### 1800名も入れない!

そういう状況の中で、なぜ「保育園ふやし隊@杉並」の立ち上げとなったのか。杉並の保育問題協議会が保育室を認可保育園にする署名に取り組んでいまして、そこに数名の、育休中や待機中のお母さんが会議に参加するようになったのがきっかけでした。会議の席では、以前から「いっしょに何かできたらいいね」という話しはするものの、とても難しいと思っていました。しかし、1月に4月入園に向けての申込みの状況が発表され、1800人が入れないというデータが出たので、何かやってみようという話になりました。何人集まるかわからないけど、5名だったとしてもやる意味はあるんじゃないかということで、とりあえず2月に区役所前抗議集会と集団での異議申し立てを、3月に区議会議員を招いての保育集会を行うことにしました。

異議申し立ては、やったから入れるわけではありません。しかし、みんなで取りくみやすいし、行政に不満を持っている人がいることを法にのっとった手段で記録に残したいという思いから、取りくんでみることにしました。

こうした行動を知らせるために、駅前でチラシをまいたり、ツイッターなどのソーシャルメディアを使って宣伝しました。不承諾通知が出た日には区役所前に行って、寒い中、赤ちゃんをだっこしながら、区役所から出てくる子連れの人にチラシを渡したりしました。区役所前では、「もしかし

て保育園ですか」「どういう状況なんですか」と声をかけながら話を聞いたりしました。「入れると思っていたのにショック」「認可外に電話をかけても〇番目と言われた」「4月から仕事に復帰しないといけないのにどうしよう」など、本当に困っていました。そして、抗議集会をすることや異議申し立てをするのでよかったら一緒にやりませんか、と声をかけると、都合がつけば行きますという人が数名いましたが、何人来てくれるかわからない状況のまま集会を迎えました。

当日は、たまたま保育課にきていた方や、ちらしやツイッターをみてきてくれた方などおよそ50名が参加。保育園に入れないうつらさや保活の大変さを涙ながらに訴える方もいて、待機児童問題がいかに深刻な問題かを訴えることができました。

また、異議申し立ても、多くの方が参加し、当日は60通提出することができました。

そのほか、区議会の会派まわりや議会傍聴にも行きました。

こうした行動を受けて、区は3月5日に緊急プランを発表。来年度4月に向けて認可保育園を当初計画から3園追加して6園増設を含む、計835名の定員増を行うという内容でした。3園増は十分な内容とはいえません。1800人が認可保育園に入れなかった事実を区は重く受け止めてほしいですし、認可園がないから保活がとても大変になっている状況をもっと知ってもらいたいという思いもあります。しかし、保護者の声を受け止め増設を図ったことは、とても大きな成果だと思いますし、うれしいできごとでした。

## 保育園関係者やOBの支えが力に

立ち上げ時に数名しかいないと申し上げましたが、保育園の園長や保育者OB、在園保護者の方の支えがありました。ちらしの印刷や、区議会傍聴のタイミングなどいろいろアドバイスいただきました。こうした方々の支えなしにはできなかった活動だと思っています。

ですので、公立保育園のみなさんにも、ぜひ、待機児童問題にかかわってほしいと思います。

自分の園の保護者だけでなく、保育園を求めている地域の保護者にも目を向けてほしいのです。たとえば、入所説明会を実施したりするだけでも、待機児童の保護者と交流をもつきっかけができるのでは、と思います。

待機児童問題はとても深刻です。ぜひ、みなさんもいっしょになって考えていただきたいと思います。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】